

# えりも岬国有林での観察会の実施結果および観光への活用を目指した 見どころの整理について

高橋梨沙<sup>1)</sup>

## キーワード

襟裳岬, 国有林, クロマツ, 観光活用, 日高山脈

観察された植物や生物, 景観を季節ごとに整理した.

## はじめに

えりも岬国有林は襟裳岬の北にある森で, 元はカシワやミズナラ, ハルニレなどの広葉樹の原生林だったが, 明治以降, 豊かな漁場を求めて移住した人々の生活のための燃料として樹木が伐採され, 急速に砂漠化した<sup>1)</sup>. 飛砂で沖合 10km まで海が濁り, 回遊魚や沿岸魚は減少し, 昆布などの海藻類も根腐れして採れなくなった. 飲料水にも砂が混じり, 住民の集団移転の話がなされるほど荒廃した<sup>1)</sup>.

昭和 28 年 4 月 1 日, 北海道営林署が浦河営林署に「えりも治山事業所」を開設し, 荒廃した土地の緑化が始まった<sup>1)</sup>. 襟裳岬の強風の中での作業は困難を極めたものの, 治山事業所の歴代の主任とともに住民が様々な試行錯誤を重ね, 開始から 15 年後の昭和 42 年には 192ha が草本で緑化された. 緑化事業は令和 7 年で 72 年を数え, 現在も継続されている<sup>1)</sup>.

本観察会では, 緑化事業の歴史とともに, 回復した自然環境や植生, さらに日高山脈の景観を総合的に観察できる場所としてえりも岬木道(図 1)に着目した. 月 1 回の観察会を 8 回実施し,



図 1. えりも岬木道

## 観察会について ①日程

観察会は, 4 月 27 日, 5 月 4 日, 6 月 1 日, 7 月 6 日, 8 月 3 日, 9 月 6 日, 10 月 12 日, 11 月 1 日に実施を予定した. このうち, 天候不順により 6 月 1 日, 10 月 12 日, 11 月 1 日の回は中止とした.

中止とした回については, 代替として単独で観察を行い, 6 月 1 日の回は 5 月 30 日, 10 月 12 日の回は 10 月 13 日, 11 月 1 日の回は 11 月 4 日にそれぞれ実施した.

## 観察会について ②行程

ルートを図 2 に示す. 全長は約 2.4km であり, えりも町林業総合センター・みどり館を発着地点とした. 前半約 1.2km は襟裳公園線・側道を歩行し, 後半約 1.2km はえりも岬国有林内の木道を下りながら再び出発地点へ戻るルートとした.

## 観察会について ③対象としたもの

観察会参加者とともに, 道路区間を含む全行程において植物・鳥類・景観を中心に自然観察を実施した. 植物の種は図鑑を参照して同定した.<sup>2,3,4)</sup>

## 結果 ①観察できた植物

観察会において確認された植物の一覧を表 1 に示した. なお, 一部の種については詳細な同定が困難であったため, 「〇〇の仲間」として掲載した.

1) えりも町郷土資料館 〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜 207 番地

### 結果 ②観察できた鳥類

アオジ、ウグイス、ノビタキ、カワラヒワ、ヒバリ、ツバメ、ツミ、オオジシギ、ハシボソガラス

### 結果 ③緑化事業について

樹木について、緑化事業により植栽されたクロマツやアキグミのほか、郷土樹種であるカシワやミズナラなどからなる森林を観察することができた。強風環境下にある襟裳岬では、カシワなどの樹木は風衝樹形と呼ばれる特徴的な形態を示しており、その様子も確認された。

また、強風下で苗木を育成するために設置された設備として、ハードルフェンスや防風柵、六角耐雪防風柵などを見学することができ、緑化事業における工夫と試行錯誤の歴史を実地に理解することができた。

### 結果 ④日高山脈の景観について

木道から観察した日高山脈の山並みを図3に示した。北側からルチシ山、オキシマップ山、豊似岳、三枚岳、二枚岳、一枚岳を望むことができた。山腹にはかつての海底が隆起して形成された海成段丘が地形に沿って水平に広がる様子が確認され、さらに南端では日高山脈が海へと連続していく地形（庶野地区・千平）を観察できた。

### 結果 ⑤昆布漁の景観について

当地は日高昆布の主要な生産地であり、7月から9月頃にかけて「採り昆布漁」が行われる。漁は風や波が穏やかな晴天時に限られるが、実施日にあたれば収穫された昆布が干場一面に広げられる様子を木道上から俯瞰できる。8月3日の観察会ではこの景観を確認できた。

### 注意点 ①クロマツの花粉について

6月頃にはクロマツが開花し、大量の花粉が飛

散する。そのため、花粉症などのアレルギーを有する場合は事前の対策が必要である。

### 注意点 ②利用可能時期

観察会を実施した4月から11月の期間においては木道上に積雪がなく、安全に利用可能だった。

### 考察

襟裳岬は当町を代表する観光地であり、年間を通じて多くの観光客が訪れている。しかし、周辺の観光資源は限られているため、景観を鑑賞した後に短時間で移動する通過型の観光形態となりやすいという課題がある。本観察会ではこの課題を踏まえ、襟裳岬周辺の自然環境を活用し、来訪者の滞在時間の延長につながる可能性について検討した。

対象ルートは全長約2.4kmであり、前半は車道を約1.2km歩いて段丘上の木道入口へ向かい、後半は木道を約1.2km下りながら森林内を通過する構成とした。木道ではクロマツ、カシワ、ミズナラなどの林内を通過し、林内では樹木による遮風効果を体感することができる。また、歩行中には日高山脈の山並みや百人浜、えりも岬国有林を一望することができ、景観的にも変化に富んだルートとなっている。

当地は日高昆布の主要な生産地であり、7月から9月頃にかけて行われる採り昆布漁の際には、収穫された昆布が干場に広げられる様子を木道から俯瞰することができる。このように、地域の生業と結びついた景観を体験できる点も大きな特徴である。

また、本地域では季節ごとに多様な植物を観察することができる。ガンコウランについては、春の開花、夏の結実、さらに季節に応じた葉色の変化など、季節とともに変化する様子を観察できた。

夏季にはオオハナウドやエゾカワラナデシコなどの開花が見られ、秋季にはコハマギクの花やヤマブドウの結実に加え、キジムシロの仲間やハマナスなどの紅葉が観察されたことから、冬季を除く期間であれば、植物の観察を十分に楽しむことが出来ることが分かった。

冬季は積雪のため木道への立ち入りは難しいが、秋口や早春の新雪・残雪期には、雪によって強調された日高山脈の地形や海成段丘の位置・構造を、より明瞭に把握できた。

安全面については、車道区間に歩道が整備されていない部分があるため注意を要するが、木道区間のみを利用することで安全性を確保した短時間の散策も可能である。木道の一部利用であれば10分から30分程度でも自然観察を楽しむことができ、全行程を通して所要時間は約1時間、観察を含めても約2時間であるため、幅広い来訪者層に対応可能である。当地は近隣のえりも岬小学校の卒業生が遊び場として利用していた事例もあり、地域住民にとって身近な場所であることから、来訪者が地域の日常に触れながら散策できる「暮らすように楽しむ観光」の場としての活用も期待される。

れる。

以上のことから、本観察会で設定したルートは襟裳岬における自然資源を活用した観光の新たな展開を示すものであり、来訪者がゆとりをもって滞在し、地域の魅力をより深く体感するための一助となることが期待される。

## 参考文献

1. '92 緑と魚のフェスティバル実行委員会, 1992. えりも岬国有林緑化事業の成果 森は環境をよみがえらせた えりも岬国有林緑化事業40周年記念 '92 緑と魚のフェスティバル報告書. '92 緑と魚のフェスティバル実行委員会, 北海道営林署, えりも町, えりも岬の緑を守る会.
2. 三浦忠雄, 1999. 新版えりもの植物 (新版「えりもの植物」出版実行委員会編). 399pp. えりも町教育委員会.
3. 梅沢俊, 2007. 新北海道の花. 462pp. 北海道大学出版会, 札幌.
4. 佐藤孝夫, 2017. 増補新装版 北海道樹木図鑑. 351pp. 株式会社亜璃西社, 札幌.

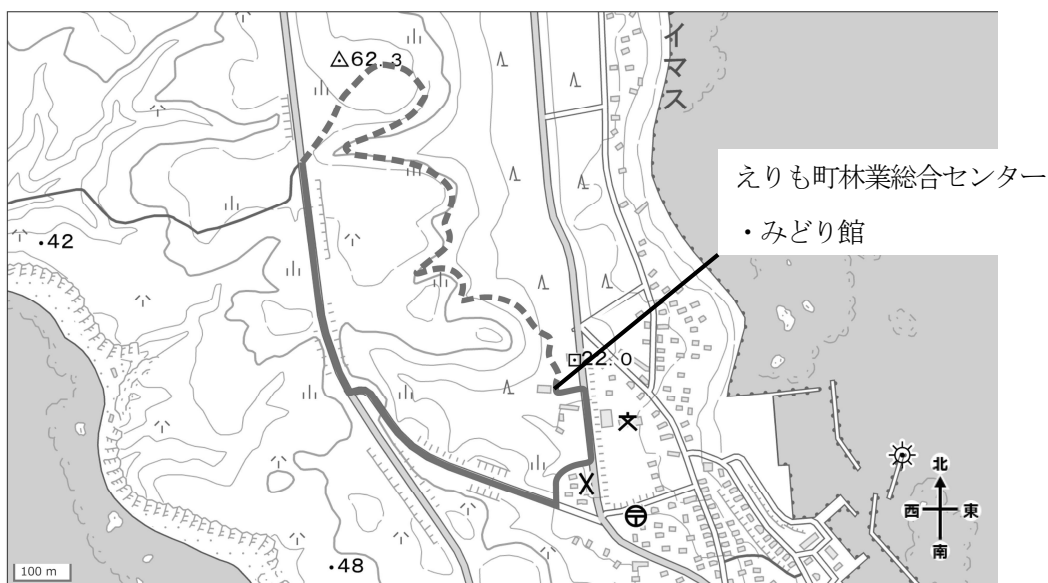


図2. 観察会 行程 (車道 (歩道) は実線、木道は破線)

表 1. 観察会で確認した植物

科名	種名	科名	種名	科名	種名
アカネ科	エゾカワラマツバ	キンボウゲ科	アキカラマツ	バラ科	キジムシロの仲間
アカネ科	キバナノカワラマツバ	キンボウゲ科	ヒメイチゲ	バラ科	クマイチゴ
アカネ科	クルマバソウ	グミ科	アキグミ	バラ科	ナガボノシロワレモコウ
アカネ科	ヤエムグラ	ケシ科	エゾエンゴサク	バラ科	ナナカマド
アジサイ科	ノリウツギ	ゴマノハグサ科	ウンラン	バラ科	ノイバラ
イネ科	オオアワガエリ (チモシー)	ゴマノハグサ科	エゾコゴメグサ	バラ科	ハマナス
イネ科	ススキ	サクラソウ科	クサレダマ	バラ科	ヤマブキショウマ
イラクサ科	アオミズ	シソ科	クサギ	フロンソウ科	エゾフウロ
ウルシ科	ツタウルシ	シソ科	クルマバナ	フロンソウ科	ゲンノショウコ
オトギリソウ科	オトギリソウ	シソ科	ナギナタコウジュ	ブドウ科	ノブドウ
カタバミ科	カタバミ	シソ科	ナミキソウ	ブドウ科	ヤマブドウ
キキョウ科	ツリガネニンジン	スイカズラ科	エゾニワトコ	ブナ科	カシワ
キク科	アキノキリンソウ	スマレ科	スマレの仲間	ベンケイソウ科	オウシュウマンネングサ
キク科	アラゲハンゴンソウ	セリ科	アマニュウ	ベンケイソウ科	コモチレンゲ
キク科	イワヨモギ	セリ科	エゾノヨロイグサ	マツ科	クロマツ
キク科	エゾノコンギク	セリ科	オオハナウド	マメ科	イタチハギ
キク科	オオノアザミ	セリ科	セントウソウ	マメ科	クサフジ
キク科	カセンソウ	セリ科	ノラニンジン	マメ科	クスダマツメクサ
キク科	ガンクビソウ	タデ科	アキノウナギツカミ	マメ科	シロツメクサ
キク科	コハマギク	タデ科	オオイタドリ	マメ科	セイヨウミヤコグサ
キク科	ノコギリソウの仲間	タデ科	ハナタデ	マメ科	ヒロハクサフジ
キク科	ハンゴンソウ	タデ科	ミズヒキ	マメ科	ムラサキツメクサ
キク科	フランスギク	ツツジ科	ガンコウラン	ミカン科	サンショウ
キク科	ミミコウモリ	ツツジ科	ハクサンシャクナゲ	ヤナギ科	ミネヤナギ
キク科	ミヤマアズマギク	トウダイグサ科	コニシキソウ	ヤナギ科	ヤナギの仲間
キク科	ユウゼンギク	ナデシコ科	ウスベニツメクサ	ユリ科	コオニユリ
キク科	ヨツバヒヨドリ	ナデシコ科	エゾカワラナデシコ	リンドウ科	チシマセンブリ
キジカクシ科	マイヅルソウ	ナデシコ科	ハコベの仲間	リンドウ科	ハナイカリ
		ニシキギ科	ツルウメモドキ	リンドウ科	フデリンドウ

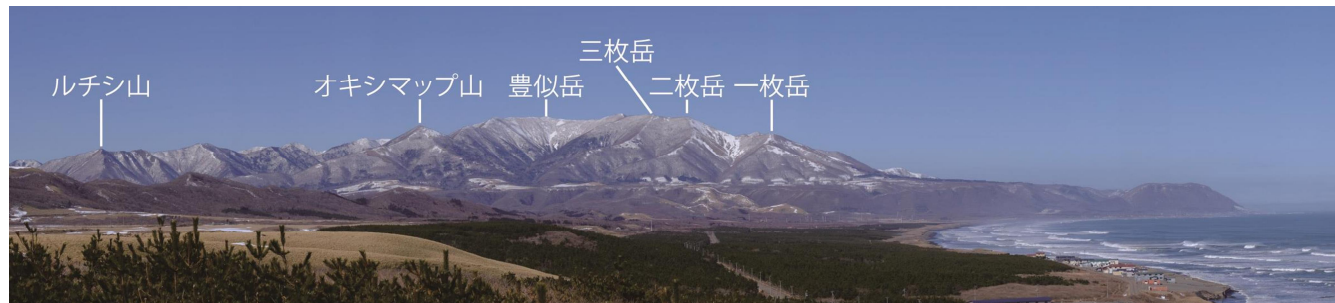


図 3. 木道から臨む日高山脈のやまなみ